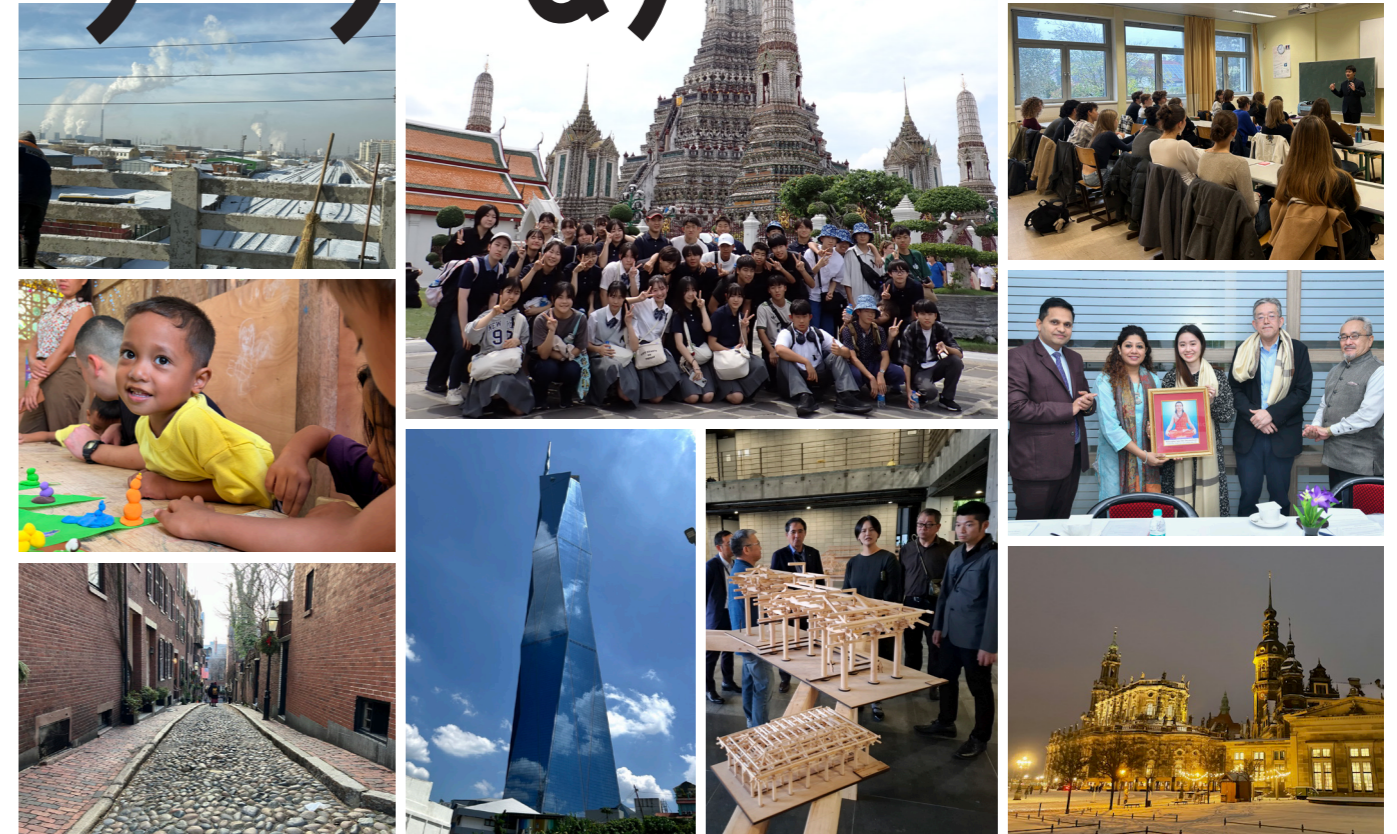
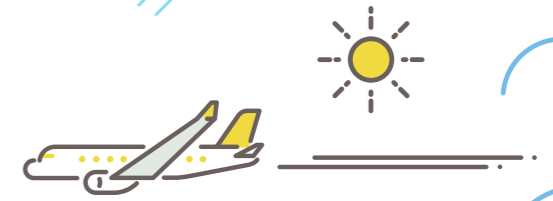


海外教育 2026

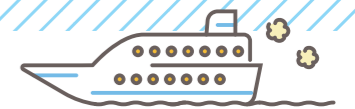
旅行の すすめ



お問い合わせ先: 観光庁 参事官(旅行振興)

☎03-5253-8329

海外教育旅行のすすめ 観光庁





はじめに

観光庁では、令和7年度「海外教育旅行プログラム付加価値向上事業」において、旅行会社と学校関係者等の連携により企画開発された海外教育旅行の支援を行いました。

旅行会社が、学校関係者と連携して、学校の海外教育旅行に求めるものや海外での学習により得られる効果などを反映し、来年度以降における海外教育旅行の実施、また商品化を目指し、有識者のアドバイスをいただきながら、教育的に付加価値の高いプログラム開発に取り組んでいただき、旅行会社や学校関係者に現地視察も実施していただきました。

本書は、今年度開発されたプログラム内容や成果、教育効果などを簡潔にまとめたものです。

今後の海外教育旅行を新たに実施・検討を行う学校関係者や旅行会社の参考になれば幸いです。

末尾になりましたが、本事業にご協力いただきました有識者、旅行会社、学校関係者、その他関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

ロードマップ 5

東アジア・南アジア	事例 1	台湾	建築で未来を創る 台湾で学ぶ災害復興と伝統継承の実践型グローバル教育 くま川鉄道株式会社 × 熊本県立球磨工業高校 6
	事例 2	モンゴル	STEM交流プログラム 東武トップツアーズ株式会社 札幌支店 × 立命館慶祥高等学校 8
	事例 3	インド	新しい時代の未来を創造する旅! ～インドの精神・哲学から、創造性・柔軟性・余白を感じる 次世代スタディツアー～ カモメツーリスト株式会社 × 新渡戸文化中学校・高等学校 10
東南アジア	事例 4	タイ	微笑みの国で拓く、Well-being 探究の旅 ～自由研究で見つける、私と世界のつながり～ 株式会社 JTB 茨城南支店 × 茗溪学園中学校高等学校 12
	事例 5	マレーシア	錫(すず)の歴史から最先端ロボティクスおよび 多文化共生社会を技術で読み解く 株式会社イクシル × 公益社団法人 全国工業高等学校長協会 14
	事例 6	フィリピン	ストリートチルドレン支援現場で学ぶ 「産業福祉」実地研修 東武トップツアーズ株式会社 仙台支店 × 聖ウルスラ学院英智高等学校 16
北米	事例 7	アメリカ	離島と世界を繋ぐ ～歴史から未来を創り人材を育む教育旅行プログラム～ 株式会社 JTB 教育第二事業部 × 東京都御蔵島村教育委員会(御蔵島村立御蔵島小中学校) 18
ヨーロッパ	事例 8	ドイツ	Think globally, Act locally! 『グローバル人財育成プログラム』 ～職業観の醸成と持続可能な地域社会へ～ 株式会社 JTB 佐賀支店 × 佐賀県立有田工業高等学校 20
	事例 9	チェコ	チェコ・プラハで日本を学ぶ ～日本語・日本文化から始める海外研修の形～ 株式会社エモック・エンタープライズ × 開智中学・高等学校 22

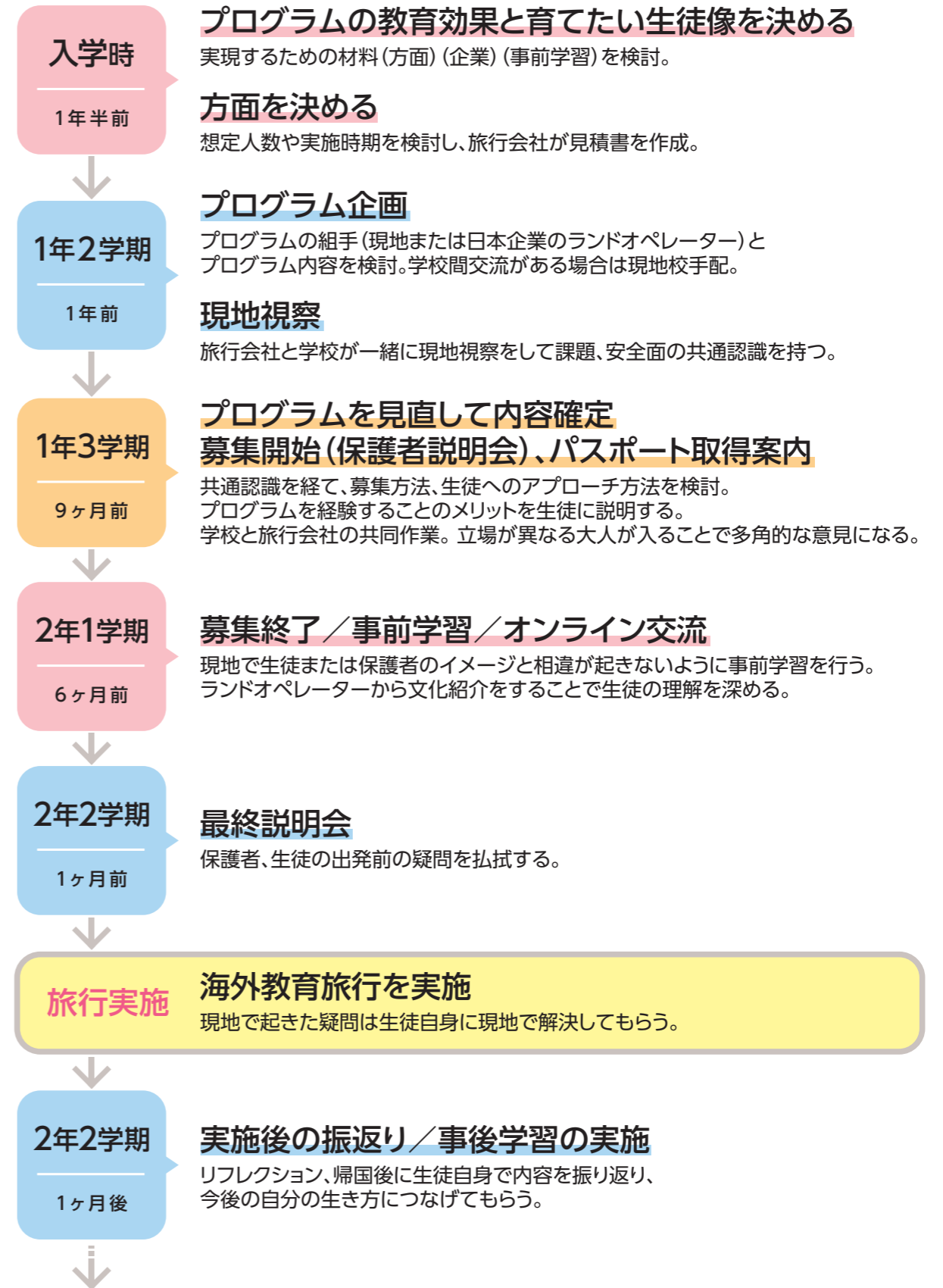
選定委員・アドバイザーのご紹介 24

プログラム問合せ先 25

海外教育旅行実施のロードマップ

高校2年生 / 秋の実施を想定

※プログラム内容によって期間は異なります。





くま川鉄道株式会社
×
熊本県立球磨工業高校

建築で未来を創る

台湾で学ぶ災害復興と
伝統継承の実践型グローバル教育



実践大学校内に展示されている、木造建築模型の説明を受ける

プログラム概要

熊本県立球磨工業高校伝統建築科の生徒を対象に、地域資源である木造建築の技術継承を実践的に学びながら、災害復興・木造建築の保全・宗教建築という3つの視点から国際的な知見を深めることを目的としています。

プログラムの教育効果

地域資源である木造建築の技術継承と発展を担うとともに、国際的な視野と多様な文化への理解を備えた人材を育成します。地域に根差しながらも世界とつながり、専門的スキルを生かして地域振興や国際交流に貢献できる人材の育成を目指します。特に、課題発見・解決力、異文化コミュニケーション能力、協働性を兼ね備えた次世代の建築技術者の育成を重視します。

プログラム行程

1日目	AM 桃園出発→熊本到着 PM 現地オリエンテーション、夕食	4日目	AM 実践大学(建築学科)訪問交流 PM 実践大学(建築学科)授業参加
2日目	AM 雲林科技大学(文化遺産学科、デザイン学科)訪問交流 PM 台湾の伝統建築視察	5日目	AM 成果発表会 PM 熊本出発→桃園到着
3日目	AM 台湾文化部伝統建築伝承塾見学 PM 台湾文化部伝統建築伝承塾授業		

事前学習・事後学習

準備期間	4~5ヶ月を想定
事前学習	木造建築の基礎(構造・耐震)と日本の事例学習。台湾の建築文化・歴史、宗教建築の特徴に関する講座。現地での安全対策と基本語学の習得。台北・台中・雲林・嘉義の歴史的建築物や再生施設の視察。大学での合同ワークショップ。伝統工芸師との交流を通じた修復技術の体験。
事後学習	現地での学びを地域課題(球磨地方の建築保全など)へどう応用できるかの検討。報告書の作成および学内・地域での成果発表会の実施。
ポイント	事前学習では、球磨工業高校で培った日本の木造建築技術(構造・耐震)を再確認し、台湾の歴史的背景や宗教建築の基礎知識を習得します。これにより、現地での視察を単なる見学に留めず、日台の技術差や文化の多様性を比較・考察するための評価軸を確立させます。事後学習では、台湾でのワークショップや伝統建築の保存・活用事例から得た知見を整理し、「伝統技術をいかに現代や未来へ繋ぐか」を言語化します。特に、被災経験を持つ両地域の共通課題である「災害復興と建築」について議論を深め、成果発表会を通じて地域社会へ還元します。これらのプロセスにより、専門技術を国際的・多角的な視点から活用できる能力を養います。

ここが
ポイント!

伝統技術の伝承から、 歴史資源を活かす「共創」の学びへ

事前視察を通じ、伝統建築科の教師陣が台湾の大学(実践大学・雲林科技大学)での教育手法や現場の熱量に直接触れました。共通の図面を前に現地教授陣と議論を重ねる中で、日本の技術を伝えるだけでなく、台湾の「歴史資源を現代に活かす柔軟な発想」を取り入れる必要性を痛感。この気づきにより、単なる見学ではない、生徒が能動的に現地学生と解決策を探究する共創型プログラムへと内容を深化させる決断に至りました。



雲林科技大学 文化遺産学科
及びデザイン学科の教授と意見交換



雲林科技大学にて学校説明後記念写真

プログラム開発の成果

視察日程	2025年11月10日~11月14日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育目標に合致した視察ルートと学習リソースの確定 ② 現地大学・台湾の国レベルの専門機関との連携強化と交流プログラムの具体化 ③ 安全管理体制の徹底確認とリスクマネジメントの構築

事前視察により、学校と旅行会社、現地事務局が一体となって、専門技術習得と安全確保の両面を直接確認できたことが最大の成果です。

台湾の歴史的建築が現代に活かされる現場を目の当たりにし、球磨地方の伝統技術を継承する生徒たちにとって、極めて高い教育的付加価値があるプログラムだと確信しました。現地大学との綿密な調整により、単なる見学ではない「共創」の場が整い、生徒が国際的な視野で自らの専門性を磨く準備が完了しました。



国立虎尾農工高校 実習室にて
生徒の製作の説明を受ける



実践大学 建築設計学科 デザイン課の教室にて
説明を受ける

安全対策

現地事務局(LOCAL TO LOCAL株式会社)による日本語対応可能な体制の構築。24時間連絡体制の確保、提携病院の確認、および緊急時マニュアルの策定と共有。また、台湾人スタッフも常駐しています。

学校関係者のコメント

熊本県立球磨工業高等学校 右田 木郎 先生

本校の伝統建築コースの生徒たちが、台湾文化部や文化財修復に高い専門性を有する大学との交流をととして、日台の文化財の維持・保存技術等の共通点・相違点を学び、伝統建築というものをグローバルに捉えられる視点を身に付けさせたいと考えています。さらに、現地の高校や大学と姉妹校提携を結び、お互いが行き来し、フィールドワーク等で両国共通の課題(建築技能者不足、防災等)の解決に取り組んで欲しいと願っています。さらには、研修に参加した生徒たちが経験したことを持ち帰り、学校に好影響をもたらしてくれることも期待しています。

アドバイザーのコメント

和歌山大学観光学部・武蔵野大学しあわせ研究所 教授 加藤 久美氏



本プログラムでは、専門性にグローバルな視点を加えると同時に、現地の学生や専門家との交流を通じて、伝統技術を守ることの意義や職業観について考える機会を得ることができます。歴史建築保存地区の視察を通じて、伝統建築の保全や商業活用、防災や復興に関する知見を得ることは大変意義深いものです。伝統建築が減少していく中で、気候や地形、風土に合った住環境の重要性を再認識することが、学生たちの自信やモチベーションの向上につながることを期待しています。近年、日本においても伝統建築をカフェやホテルなどの商業施設として活用する動きが見られます。これらの取り組みは、伝統技術に新たな価値をもたらす方策の一つであり、新しい視点として学生の関心を高めるものと考えられます。本プログラムは、九州を中心に進められてきた日台交流の促進に寄与するとともに、両国の連携が建築技術者の育成につながることを期待されます。



東武トップツアーズ株式会社 札幌支店
×
立命館慶祥高等学校

STEM 交流プログラム



日本人抑留の歴史を学ぶ「さくらミュージアム」外観

プログラム概要

理数系教育を国家戦略に掲げるモンゴルの教育機関と、学術的知見の共有を通じた共同研究プロジェクトを推進します。STEM分野を核に、現地の伝統・文化体験など、多角的な学習機会を提供。これらを通じて、単なる知識習得に留まらない次世代のイノベーターを育成するとともに、両国間の信頼に基づく強固な人的ネットワークを構築し、持続可能な協力関係の確立を目指します。

プログラムの教育効果

日本・モンゴル両国の未来を担う人材育成と関係強化を目的としています。生徒は技術習得に加え、異文化理解や国際共同の経験を通じ、世界を視野に入れた進路選択や学習意欲の向上を図れます。教員も異なる教育現場での経験を授業改善や指導法の研鑽に活かすことが可能です。こうした若年層からの草の根交流は、両国の友好関係をより深く、強固なものにする礎となることが期待されます。

プログラム行程

1日目	新千歳空港～成田空港経由 終日 ~チンギスハーン空港 (宿泊)ウランバートル市内 【新モンゴル日馬富士学園訪問】	5日目	【テレルジ国立公園、ウランバートル市内見学】 AM 遊牧民との交流、乗馬体験、大チンギス騎馬像 PM ウランバートル市内見学 (ノゴーンノール公園、さくらミュージアム) ※日本抑留者の歴史に触れる (宿泊)ウランバートル市内
2日目	AM オリエンテーリング、アイスブレイク、共同研究活動準備 PM 現地校授業参加(共同研究担当教員による特別授業)、 共同研究活動準備 (宿泊)ウランバートル市内	6日目	【新モンゴル日馬富士学園訪問】 AM 共同研修活動準備(発表準備) PM 共同研究活動準備(プレゼン練習) (宿泊)ウランバートル市内
3日目	【モンゴルコーセン技術カレッジ・モンゴル工業技術大学訪問】 AM 現地校授業参加(コーセン担当教員による特別授業)、 施設設備見学 PM 研究室実習、学生との交流 (宿泊)ウランバートル市内	7日目	【新モンゴル日馬富士学園訪問】 AM 共同研究成果発表会 PM 修了式、フェアウェルパーティ (宿泊)ウランバートル市内
4日目	【新モンゴル日馬富士学園訪問】 AM 共同研究活動準備(プレゼンテーション制作) PM ウランバートル市内見学 (国立歴史博物館、ガンダン寺、チンギスハーン広場など) (宿泊)テレルジ国立公園 ゲル宿泊体験 ※夜は星空鑑賞	8日目	終日 チンギスハーン空港～成田空港経由 ～新千歳空港

事前学習・事後学習

準備期間	4ヶ月程度を想定
事前学習	モンゴルの社会やSTEM教育の現状、共同研究に必要な専門知識を学び、対話の土台を築きます。あわせて異文化特有の価値観やマナーを習得することで、互いを尊重し円滑に協力できる姿勢を養うことを目的とします。
事後学習	交流を通じた気づきや成果を言語化・発信し、学びを定着させます。モンゴルの社会と自身を比較してグローバルな視点を深めるとともに、得た知見を周囲へ還元し、将来の進路や次回交流に活かす姿勢を養います。
ポイント	事前学習では、モンゴルの社会・文化やSTEM分野の現状を学び、異文化尊重の姿勢を養います。専門知識を整理し、マナーや価値観の違いを理解することで、現地での主体的な対話や共同研究に向けた準備を整えます。事後学習では、体験を振り返り言語化することで学びを定着させます。活動成果を可視化して発信し、日本との比較を通じてグローバルな視野を拡大します。得られた知見を学校や地域へ還元して公共性を意識するとともに、自身の課題を明確化し、広い視野を持って主体的に学び続ける姿勢を育むことを目指します。

ここが
ポイント!

都市化が進むモンゴルは 地域課題探究の宝庫

現地高校との連携作りを主目的として訪問をしたものの、現地での移動中に目の当たりにした風景から多くの教育的テーマの着想を得ました。火力発電所と都市設計、ゲル生活と大気汚染、日本人抑留の歴史など、実は現代日本にとって、モンゴルは国際交流および地域課題探究の題材の宝庫であることがわかり、今後現地高校生と共に日本の高校生がそれらを訪問する活動を交流プログラムに取り入れる計画を立てています。



モンゴルは広大な土地を有しており、日本ではできないような実験実習が可能



都市化が進むウランバートルを支える火力発電所

プログラム開発の成果

視察日程	2025年11月21日～11月25日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 理数系教育と日本の学校との交流に注力している新モンゴル日馬富士学園とのパイプの獲得 ② 広大な土地を有するモンゴルでは日本ではできないフィールドワークが可能(気球実験など) ③ 日本人抑留者の歴史に触れることで、日本との深いつながりを知ることができる

モンゴル国全体として教育への関心の高さを感ずることができました。また、都心に火力発電所があることから、都市開発と環境問題、民族文化と日本人抑留の歴史など、探究活動として多くのコンテンツが存在していることが分かりました。これらを踏まえ、交流プログラムの内容にさらなる広がりを持たせることが期待されます。



テレルジ国立公園の観光スポット「亀岩」



交流相手校「新モンゴル日馬富士学園」理事長 日馬富士

安全対策

現地でトラブルが発生した際は、添乗員や引率責任者が起点となり、現地の日本大使館や医療機関、現地オペレーターに加え、日本の学校やご家庭、旅行会社へ即座に状況を共有します。重大事案の場合には本社内に「緊急対策本部」を設置し、現場対策班や外務省、航空会社など各関係機関と連携して組織的な救済・対応にあたります。このように、現場からの迅速な報告と、日本国内のバックアップ体制を連動させることで、参加者の安全確保と事態の早期収束を図る仕組みを整えています。

学校関係者のコメント

立命館慶祥中学校・高等学校 福田 貴之 先生

実際に現地の学校(KOSENおよびK-12制度)を訪問し、モンゴル国民の教育への関心の変化や新設される私立学校に関する情報を得る中で、ウランバートルを中心に国際教育への志向が高まっていると感じました。日馬富士学園においては、突然の訪問のお願いにもかかわらず、丁寧に情報交換を行っていただき、今後の連携に向けた相談の機会を得ることができました。また、現地の方々との交流を通じて、一般的に閉鎖的・内向的と形容されるモンゴルの国民性は思慮深さの表れでもあったと感じました。そのような特性を背景に、交渉力を有する国際関係担当の先生方とは、今後も密な連携が図れることが期待されます。

アドバイザーのコメント

日本認定留学カウンセラー協会 代表幹事 星野 達彦 氏



現在日本にモンゴルという国の歴史や文化そして人々の生活を知りたい高校生がどのくらいいるのでしょうか?戦後の日本人の抑留などの歴史もあるモンゴルと日本は今後益々繋がりが強まると予想されます。このプログラムで生徒たちが現地の生徒との交流をフィールドワークを通じてモンゴルという国を知り関心や多角的な視野を持つことを大いに期待します。そして今後も学校として現地の高校と交流を継続して行っていただきたいと思います。

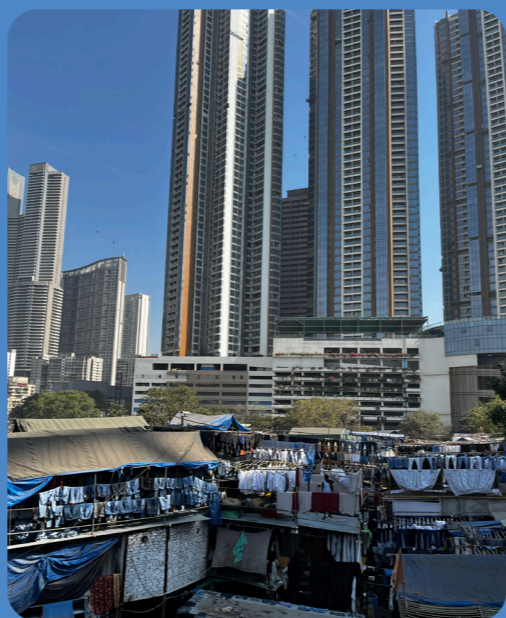


インド

カモメツーリスト株式会社
×
新渡戸文化中学校・高等学校

新しい時代の未来を 創造する旅!

～インドの精神・哲学から、創造性・柔軟性・
余白を感じる 次世代スタディツアー～



Dhobi Ghat (ドービー・ガート)

ここが
ポイント!

「自分らしく生きるとは何か」 インドの多様な人・文化・生活・哲学のありのままの体験と気づき

MIT-ADT大学の関係者、プネ大学のマナシ博士、AAAWIのPRAVIN会長、各組織との共同プログラム・インド人学生との交流が可能です。
また、ITパークや金融街などグローバルの最先端に行く光景と、市場での複数の言語や宗教施設が混在する光景、インドの精神性に触れ、新たな価値観に気づく機会になります。



Chhatrapati Shivaji Maharaj Terminus 構内



MIT-ADT University

プログラム概要

未来の日本を担う中高生に、多様性の国「インド」にある精神・哲学をありのままに体験することで、自身を取り巻く環境や地域・社会の「ウェルビーイング (Well-being)」について探究します。

- 多様性(言語・宗教・文化・自然)の宝庫である「インド」を体感します。
- 独立への闘争の象徴「アカガーン宮殿」の体験や同世代間の交流を通じ、「非暴力・不服従」「ジュガール精神」などインドの精神や哲学を学びます。

プログラムの教育効果

- ①世界でも数少ない多様性に富んだ国インド・プネの言語・哲学・文化と伝統を五感で体感します。
 - ②世界に人材を輩出するインドの教育機関・同世代の学生と共に学び、交流を深めます。
 - ③ヨーガや瞑想などのリトリートの時間を体験し、自分自身を見つめ直します。
- 以上を通じ、将来(2050年)の日本を想像し、自分の将来の目標や自分らしさを創造します。

プログラム行程

1日目	AM 東京(成田又は羽田)空港から、航空機にてムンバイへ PM ムンバイ空港到着後、ホテルへ移動	5日目	AM インド政府AYUSH省(傘下の自律機関にて、自然医療療法レクチャーやヨガ瞑想体験・現地の方々との交流) PM インド国内で最多の日本語学習者が在籍するプネ大学協力によるホームステイ体験
2日目	AM 地元高校生との交流会、日本文化紹介(書道/折り紙/伝統遊び等)・インド料理調理体験(食文化・多様性理解) PM インド伝統工芸・音楽・舞踊の鑑賞や体験、市場訪問や地域コミュニティとの交流、アシュラム体験(精神性や哲学の理解)	6日目	AM プネからムンバイへ列車にて移動 PM (インドの列車文化を体験)ムンバイ市内散策(タージマハルホテル、ユネスコの世界遺産登録の鉄道駅など) 夜 ムンバイ空港から、航空機にて東京(成田又は羽田)へ
3日目	AM ムンバイから列車にてプネへ、インドの列車文化を体験 PM 歴史・文化体験(アガカーン宮殿、シャニワール・ワダなど)	7日目	AM 東京(成田又は羽田)着
4日目	AM 教育機関訪問・学術交流(SDH理念やカリキュラム・施設理解、MIT-ADT大学日本語学習者との交流) PM 教育機関訪問・学術交流(選択必修科目でもあるインドの芸術体験・交流)		

事前学習・事後学習

準備期間	4～5ヶ月を想定
事前学習	【フィールドワーク】「インド独立の父」マハトマ・ガンディー像(東京都杉並中央図書館)や独立戦士ネタジ・チャンドラボースが眠る蓮光寺など訪問、インド映画鑑賞
事後学習	【発信・共有】【関係性の継続】 ●校内スタディフェスタでの発表 ●帰着報告会(参加者以外の学生、保護者) ●更なるインドとの交流へ向けた現地関係者とのコミュニケーション継続
ポイント	事前学習では、日本国内の身近なインドに触れることで、訪問前の好奇心や創造力を高めます。また、訪問先の学生とのオンラインでのコミュニケーションを実施します。 事後学習では、インドでの体験(自分の中から生まれた問い)を協働しながら、日々の探究活動に活かし接続してまいります。

プログラム開発の成果

視察日程	2025年12月21～12月26日
視察成果	① MIT-ADT University 大学の交流プログラム実施に対する全面協力 ② プネ大学日本語学科生徒宅でのホームステイ受け入れ協力の提案を頂く ③ AAWI会長を通じた、ムンバイでの学校交流・文化体験・アシュラム体験受け入れ可能性を確認

複数の教育機関との交流受け入れと密度の濃いプログラム、ムンバイ・プネの各施設訪問や生活場面の体感を通じた多様性(言語・宗教・文化・自然)の理解、自己発見につながるアシュラム体験などを通じて、学生の新たな視野が広がり、自己発見につながることを期待します。



MIT-ADT University (経営幹部との謁見)



大学との交流プログラム連携を確認



World Peace Dome (世界平和ドーム)

安全対策

常駐専門医24時間365日体制で緊急時対応を実施可能な医療機関で国際患者コーディネーターを配置する医療機関との連携を確認しました。また、腹痛時のお手洗い利用を想定した移動手段など、参加者の衛生面・健康面の不安へも細かく配慮いたします。

学校関係者のコメント

新渡戸文化中学校・高等学校 岩本 むぎ 先生

インドは、急速な経済発展と長い歴史、そして宗教や精神文化が人々の生活に深く根付く国です。本プログラムでは、学校交流や都市・地方でのフィールドワーク、アシュラム体験などを通して、生徒一人ひとりが現地で感じた違和感や驚きを大切にしながら、自分自身の問いを立てていくことを重視しています。貧富の差や価値観の多様性と向き合う経験は、物事を一面的に捉えず、世界を複眼的に見る力を育てるはずで、結論を急がず、「余白」を大切にしながら自ら考え続ける姿勢を身につける機会となることを期待しています。

アドバイザーのコメント

一般社団法人 次世代教育ネットワーキング機構 理事・事務局長 高野 満博 氏



伝統と革新が交差するインドは、活気あるα世代の活躍が期待され、世界で存在感を増すグローバル・サウスの重要国として大きな注目を集めています。インドの多様な文化や歴史、そして深い精神性・哲学に触れながら、現地の高校生・大学生との交流やホームステイを行う本プログラムは、これまでにない新しい学びの機会となるでしょう。海外での多様な同世代との対話を通じ、価値観の広がりを感じ、自らの内面と向き合う貴重な成長の機会として活用いただければと思います。



タイ

Thailand

株式会社JTB 茨城南支店
茗溪学園中学校高等学校

微笑みの国で拓く、Well-being探究の旅

～自由研究で見つける、私と世界のつながり～



歌声と笑顔が、国境を越えた「welcome party」この日から最高の学校交流が始まった。

プログラム概要

本プログラムはWell-beingを中核に据えた探究研修です。中学1年から身近な存在を起点に考察を続け、日本(今回はつくば)での経験を経てタイという「世界」へ学びを広げたことで、生徒はWell-beingを自分事として捉えました。自ら設定した自由研究をタイの社会・文化的文脈と結びつけ、バンコクでの班別研修等を通じ異文化での在り方を学び、将来世界でWell-beingを実現するキャリアを描く探究型研修です。

プログラムの教育効果

最大の効果は、参加者がWell-beingを軸に、多様な価値観の中で自身の在り方を再定義したことです。また、自由研究のプロセスを通じ、先行研究に基づいた仮説検証を行うことで、論理的思考力と探究心が深化しました。現地の生徒との深い対話から「世界を舞台にWell-beingを実現するキャリア」を自分事として捉え始め、異文化適応能力と同時に自国文化への誇りとアイデンティティを再認識しました。

プログラム行程

1日目	AM 学校から成田空港へ移動 PM スワンナプーム国際空港に到着後、ホテルへ移動	5日目	終日 現地校との交流(文化交流・授業体験) → ホームステイ
2日目	終日 現地校との交流(文化交流・授業体験)	6日目	終日 ホームステイ
3日目	終日 現地校との交流(自由研究のポスターセッション)	7日目	AM ホームステイ PM スワンナプーム国際空港へ移動
4日目	終日 班別研修及び団体研修(バンコク市内)		

事前学習・事後学習

準備期間	4ヶ月を想定
事前学習	タイ国政府観光庁によるオンライン講話を実施。また、各自が設定した自由研究のテーマに基づいた先行研究や参考文献の調査を通じ、タイの社会・文化およびWell-beingについて多角的に考察し、探究の土台を構築しました。
事後学習	研修での発見を自由研究の成果としてまとめ、報告会を実施しました。現地での実体験に基づき、自身のWell-beingと社会とのつながりを言語化。探究のプロセスをポートフォリオ化し、将来の進路選択に接続させました。
ポイント	事前学習では、タイ国政府観光庁による講話を取り入れた点が大きなポイントです。専門的な視点からタイの現状を理解することで、現地でのフィールドワークにおける生徒の「問い」がより鋭くなりました。事後学習においては、現地での体験を一過性の感動で終わらせないよう、リフレクションを行いました。「タイでの学びが、自身の生き方や幸せの定義をどう変えたか」を問い直し、世界を舞台にしたキャリア形成を見据えた視点を持たせました。専門家との交流で得た知識と実体験の融合が、生徒の探究成果を「社会への提言」へと昇華させる原動力となりました。

ここがポイント!

体験が、世界を開く

バンコクでの班別自主研修や現地校交流を通じ、参加者は「本当の豊かさ」を問う経験をしました。また、自らの興味関心に基づく自由研究をタイの文脈に紐付け、現地校での英語プレゼンと討論を実施。日本とタイの差異や普遍的なWell-beingへの理解を深めました。これら一連の実体験は、自己効力感を高めるとともに、将来グローバルに挑戦し続ける強固な自信を育む、心を揺さぶられる貴重な成長の機会となりました。



伝えた言葉が、世界を広げた。自分の研究を、英語でタイの生徒に。その挑戦が、確かな自信に変わった。



言葉をさがしながら、心がつながった。その一生涯命が、本物の交流だった。



自分たちの地図で、バンコクを歩いた。異国の空の下、仲間と並んだこの景色が、忘れられないページになった。

プログラム開発の成果

視察日程	2025年10月8日～10月12日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 専門家のアドバイスに基づいた多角的な比較視点による実地検証：アドバイザー星野氏の専門的知見を反映した探究プロセスの最適化と、現地活動における具現化体制の検証。 ② 班別自主研修における教育効果と安全の両立：バンコク市内の各ルートを実査し、生徒の主体性を損なわないリスク管理と学習導線を検証。 ③ 持続可能な現地パートナーシップの構築：現地校や協力機関との直接対話により、文化交流や授業体験に留まらず、自由研究を英語で発表しディスカッションできる学習環境を確保。

今回の視察では、現地校との連携強化に加え、参加者(生徒)主体の班別研修における安全確保と企画の具現性を検証しました。特にバンコク市内でのフィールドワークにおいて、教育的価値とリスク管理の最適なバランスを実地で確認できたことは大きな収穫です。専門家や現地校との直接対話を通じ、多角的な価値観を学びに反映させる強固な体制を構築できたことで、プログラムの信頼性と教育的付加価値を飛躍的に高めることができました。



自分の興味から生まれた研究が、タイの生徒との対話を動かした。



準備が体験の深さを決める。現地校との綿密な打合せが、生きた学びの土台となった。

安全対策

JTB (THAILAND) LTD.と密に連携し、宿泊・移動・医療機関を一括管理する体制を構築。事前に交流校周辺の日本語対応可能な病院を調査し、万が一の体調不良時の対応フローを教員・保護者間で共有しました。また、現地では添乗員や先生方の24時間待機に加え、現地ガイドと交通量や時間帯を考慮した安全な行程を実地踏査に基づき策定。食事アレルギーへの個別配慮や、外務省「たびレジ」による最新情報のリアルタイム共有、班別活動時の緊急連絡体制も完備していました。安全確保を最優先に、生徒が安心して探究活動に専念できるよう、徹底したサポート体制を整備しました。

学校関係者のコメント

茗溪学園中学校高等学校 大隅 雄士 先生

「世界を舞台に、自分も他者も幸せになれる未来を作りたい」という高い志が生徒たちに芽生えたことが、本研修の最大の成果です。本校の生徒は中学1年生から、自分や友人、家族といった身近な存在を出発点として、Well-beingの本質を考え続けてきました。つくば市でのフィールドワークを経て、今回のタイ研修という「世界」へと学びの場を広げたことで、抽象的な概念であったWell-beingを「自分事」として捉えられるようになりました。現地校での白熱したディスカッションや、バンコクの街を肌で感じた経験は、単なる知識の習得を超え、生徒たちが自らの手で未来を切り拓くための、確かなターニングポイントとなりました。

アドバイザーのコメント

日本認定留学カウンセラー協会 代表幹事 星野 達彦 氏



「ウェルビーイング(幸福・より良い状態)」を指標に生徒自らが問いを立てるとい取り組みをするにあたって、文化、習慣、経済、ジェンダーなどの多様性に非常に寛容なタイという場所で、現地校の生徒との交流やフィールドワークを通じて「自分の好き」を起点に、日本とタイの社会的価値観を比較検証するプロセスは、高校進学を控えた生徒のキャリア観を劇的に進化させると思いますが、しっかりと事前学習を組み込んでいることも、現地での学びを最大化できるでしょう。



株式会社イクシル
公益社団法人
全国工業高等学校長協会

すず 錫の歴史から 最先端ロボティクスおよび 多文化共生社会を 技術で読み解く



ムルデカスクエア (独立広場)

ここが
ポイント!

工科高校向け! 『ものづくり』の本質と未来を体感

MJIIでのロボット相撲を通じ、コードが物理的な動きへ変換される「フィジカルプログラミング」の奥深さを体験した生徒は、理論と実機を繋ぐ調整の重要性に気づきます。また、錫の歴史から先端ビル群へと続くKLの都市構造を建築的視点で巡る中で、技術が社会を形作るプロセスを実感します。この経験から、英語への苦手意識は「技術を実装し、都市を創るための対話ツール」という認識に変わり、自らパディへ仕様変更を提案する積極的な行動へと進化しました。



鑄造ワークショップ



フィールドワークエリア

プログラム概要

世界的な製造拠点が集積するマレーシア・クアラルンプールを舞台に、錫(すず)の歴史から最先端ロボティクス、多文化共生社会を技術視点で読み解く8日間の教育旅行です。特に、世界の製造業を支える「機械を作る機械」の拠点(日系ロボットメーカー)や、日本の教育・技術輸出の象徴であるMJIIを巡り、グローバルな産業インフラの実態を学びます。

プログラムの教育効果

- 技術進化の俯瞰: 鑄造(アナログ)から自動化(未来)まで、工業の発展系統を1時間圏内で地続きに学習できます。また、工学・機械系だけでなく建築(都市開発)やプログラミング(ロボット相撲)などを通して、世界の視点でものづくりを体感して、自分の進路を考えるきっかけにします。
- 実用英語の体得: 完璧さよりも「技術を伝える手段」としての英語に触れ、エンジニアに必要な折れないマインドを育みます。
- 多文化共生のマインド: 異なる背景を持つ人々が共存する社会の仕組みを、インタビューを通して探究します。

プログラム行程

1日目	AM 成田空港出発 → クアラルンプール(KL) PM 到着、専用車でホテルへ移動	5日目	AM 錫鑄造体験(ロイヤルセランゴール) PM 日系ロボットメーカーの最先端企業訪問
2日目	AM MJIIにてワークショップ開始 PM 現地パディと機体の設計・プログラミング	6日目	終日 KL市内フィールドワーク錫から先端技術に至る 経済成長をパディと調査
3日目	AM 共同ビルド&テスト走行 PM PDCAサイクルによる不具合改修と作戦立案	7日目	AM 市内観光 PM 夜にKLを出発
4日目	AM MJII×工科高校 ロボット相撲大会実施 PM リフレクション、交流会	8日目	AM 翌朝、日本到着後(NRT)に解散

事前学習・事後学習

準備期間	6ヶ月を想定
事前学習	オンライン交流を通じ、現地学生パディとロボットの仕様やフィジカルプログラミングの役割を共有します。ワークショップでは、都市調査や競技大会で達成すべき「自身の挑戦」を具体化し、主体的に動くための下地を整えます。
事後学習	現地で体感したことを言語化し、目標達成度を検証します。経験を糧に新たな学習目標や進路選択を考えるきっかけを可視化し、校長先生等の前で建築・ロボット工学の成果を統合したプレゼンテーションを行います。
ポイント	事前学習では、現地パディとのオンライン交流を通じてロボットの仕様やフィジカルプログラミングの役割を共有し、工業的課題を整理します。ワークショップで自らの「挑戦目標」を明確に言語化することで、受動的な旅行を能動的な「ミッション」へと昇華させます。事後学習では、技術が都市を創るプロセスや現地での成功・失敗体験を言語化し、自己効力感を醸成します。これらのプロセスを通じ、生徒は自身の技術が社会でどう役立つかを実感し、国内外を問わずエンジニアとして活躍する将来のキャリア像や進路選択を具体化する契機とします。

プログラム開発の成果

視察日程	2025年10月29日～11月1日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① セギ大学との連携可否の見極め(参加高校生の英語力を踏まえた難易度確認、施設面の充実状況の把握) ② 製造業の基礎である「鑄造」を体験できる稀有な施設の確認 ③ KL市内およびフィールドワークエリアの実踏によるルート・安全面の確認

今回の視察においては、当初計画していた大学との連携について、施設やプログラム内容に関する詳細な打ち合わせを行うことが出来ました。

一方で、内容を精査した結果、工科高校生にとっては英語力の面でやや難易度が高い状況であることが確認できた点は、大きな成果でした。そこで、現地手配会社に依頼し、代替としてMJIIにて、より実践的なプログラム構成を検討・構築することが出来ました。

さらに、製造業の基礎となる「鑄造」を体験できるワークショップを見つけることができたことも、大きな成果でした。(現地到着後に予定を変更し、当該ワークショップ施設を訪問)



製造現場



高層タワー

安全対策

旅行事業者が同行、または添乗員(1名)が引率し、現地ではランドオペレーターの専任担当者(1~2名)がアテンドします。現地における疾病等の緊急時に備え、保険対応可能な医療機関を事前に確認しています。また、旅行事業者において事故対応マニュアルを整備し、24時間の連絡体制を確保しています。行程変更が生じた場合には、旅行事業者担当者が速やかに各種手配を行います。加えて、参加者の保護者・参加学校長・協会事務局との間で、LINE、Teams、WhatsApp等を活用した緊急連絡ツールを確立しています。プロジェクトワーク実施時においても、体制を整備するとともに、WhatsApp等を活用した安否確認を行います。

学校関係者のコメント

公益社団法人 全国工業高等学校長協会 事務局長 湯澤 修一 氏

研修では、現地の学生との交流活動などを通じて、知識だけでなく国際的な視野も広げてほしいと感じています。また、海外の工場や企業の現場(リアル)を知ること、日本との違いや共通点を理解し、自分の専門分野をより深く捉えられるようになってほしいと思います。異文化の中でコミュニケーションを取る経験は、将来グローバルに活躍する工業人となるための大きな力となり、新しい環境に挑戦する姿勢を育み、自分の可能性を広げるきっかけになると期待しています。

アドバイザーのコメント

日本大学 国際関係学部 教授 宍戸 学 氏



工科高校の生徒達が、生産財の拠点であるマレーシアで研修する意義はもちろん高いのですが、さらに学校で学ぶ工業の様々な知識を海外での学びや交流に生かすことが出来る点で大変興味深い試みです。言語習得や文化理解は、海外教育旅行の重要な視点ですが、グローバル社会における技術の交流という視点で、専門性の高い協働は、参加した若者の相互理解と尊敬を育むことが出来ると思います。専門性を生かした国際交流は、工業のみならず、経済や芸術、スポーツ等、様々な視点から海外教育旅行の新たな指針となると期待します。



東武トップツアーズ株式会社 仙台支店
×
聖ウルスラ学院英智高等学校

ストリートチルドレン 支援現場で学ぶ 「産業福祉」実地研修



笑顔いっぱいの子どもたち(児童養護施設にて)

ここが
ポイント!

海外の孤児院経営等のリアルな現場に触れ、 世界の課題を自分ごととして考える

フィリピン・ミンダナオ島の児童支援施設で産業福祉の現場に直接触れ、貧困や共生を体験的に学ぶ研修です。自らの無力さと視野の限界に気づきながらも、目を背けない姿勢を育みます。事前・事後学習を通じ、「支援/被支援」を超え「共に生きる」とはを問い続けます。各校の目的に応じた柔軟な探究設計が可能な点も、本研修の大きな特徴です。



ゴミ山のスラム街で暮らす子どもたち



スラム街にある保育園

プログラム概要

本プログラムは、フィリピン・ミンダナオ島サンイシドロにある児童支援施設「House of Joy」において、孤児やストリートチルドレンの自立支援活動を体験的に学ぶ海外研修です。特に「産業福祉(=働くことを通じた福祉の支援)」に焦点を当て、共感力や内省力の向上を図るとともに、現地社会との共生、貧困の構造、子どもたちの未来への支援のあり方について探究します。

プログラムの教育効果

渡航前の国内での学習および渡航後の現地での活動など、多角的な学習機会を用意することで、次のような効果が期待されます。

- 社会貢献意識の醸成: 実際の支援活動を通じて、社会的弱者に目を向け、自ら行動する姿勢を養うことができます。
 - 自己認識と価値観の深化: 孤児たちとの交流を通して、「自分にできること」を内省する機会を得ることができます。
 - 異文化理解力の向上: 日本とは異なる生活習慣や宗教観を持つ人々との関わりを通じて、国際的な視野を広げることができます。
- このプログラムは、知識の習得にとどまらず、「自分の生き方そのものを問い直す」実践的かつ波及的な教育プログラムとなっています。

プログラム行程

1日目	AM 飛行機にて一路、ダバオへ PM 夜到着しホテルへ	4日目	AM サンイシドロへ移動 児童支援施設 House of Joyでの研修 PM ※カカオ農園視察 夜はHouse of Joyに宿泊
2日目	AM ダバオのスモークマウンテン視察 PM マティへ移動	5日目	AM ダバオ空港へ移動 PM 飛行機にて一路、日本へ
3日目	AM マティでの研修①(※ウルスラ修道院) PM マティでの研修②(※Immaculate Heart of Mary academy(私立学校) ※マティビーチ)		※学校様のテーマによって複数箇所選択可能

事前学習・事後学習

準備期間	4~5ヶ月を想定
事前学習	●フィリピンの地理・歴史・宗教 ●サンイシドロの地域と児童支援施設「House of Joy」の役割 ●ストリートチルドレンの現状 ●産業福祉の理解 ●調査テーマ設定(各自またはグループでの問いの設定)
事後学習	●個人レポート作成 ●成果発表会 ●比較研究
ポイント	現地の文化的・歴史的背景を理解し、訪問先での観察や対話の質を高めます。生徒自身が問いを立て、探究的な視点をもって現地に臨みます。福祉の支援の本質を自分ごととして捉え直すとともに、周囲への発信と行動へとつなげます。単なる「経験」にとどまらず、他者に伝え、共有し、地域に還元する仕組みを備えています。地域連携の可能性として、市内の他校や教育委員会と連携し、広域的な展開を図り、持続可能なプログラムとして成長させていきます。

プログラム開発の成果

視察日程	2025年12月9日~12月14日
視察成果	① 現地孤児院の経営形態の理解 ② ゴミ山やスラムにおける貧困サイクルの把握 ③ 現地学校訪問による協働の可能性の発掘(修道院・ビーチ・ダウンタウンなどの研修オプション視察)

現地視察を通じて実態を確認できたことは大きな成果であると考えます。孤児院の自立支援を軸に他のテーマを組み合わせることで、各校の目的に応じた柔軟なプログラム設計が可能であると考えられます。事前・事後学習を通じて、生徒が「支援・被支援」という固定概念を超え、共に生きる他者として向き合う視点を育むことができる点に、本研修の最大の価値があると考えます。



児童養護施設退所後も、継続的な交流を維持している



Immaculate Heart of Mary School(私立学校)

安全対策

現地のプログラムは、児童支援施設「House of Joy」が現地コーディネーターを担当し、各所の連携、ホテル滞在は有力な旅行会社が担うことで現地の最新事情に合わせた対応が可能となり、滞在中の安全・安心を確保します。

学校関係者のコメント

聖ウルスラ学院英智高等学校 石井 桃子 先生

本校では多彩な留学プログラムと海外姉妹校との交流を通して、世界とつながる学びを展開しています。フィリピン・ミンダナオ島の児童支援施設「House of Joy」での研修では、産業福祉の現場に触れながら貧困や共生のあり方を体験的に学びます。生徒にはあえて「己の無力さを知る」経験をしてほしいと願っています。これまでの価値観や視点が揺さぶられ、知らなかった世界の広さに気づき、自分の見方の限界を知る。その上で、決してあきらめるのではなく、高い壁に真剣に向き合いながら考え続ける力・果敢に挑戦する力を育んでほしいと思っています。この研修が、自分を見つめ直し、多様な人と出会い学び続けるための最初の一步となることを期待しています。

アドバイザーのコメント

日本大学 国際関係学部 教授 穴戸 学 氏



フィリピンにおけるストリートチルドレンの支援現場を体験することは、日本の若者にとって大きなインパクトになると考えます。「己の無力さを知る」という経験は、日頃から海外ボランティアのプログラムに真摯に向き合う実施校ならではの学びの視点であり、グローバルな視点に立って諸外国が抱える課題と自らの未来を考えるうえで、得難い機会となると考えられます。また、事前・事後学習の充実が、学びの広がりや深さを育むことは言うまでもありません。その意味において、世界の諸課題にしっかりと向き合い、学ぶ目的を明確にするとともに、高校生の目線に立ったプログラム設計とすることが重要であると考えます。



株式会社JTB 教育第二事業部
×
東京都御蔵島村教育委員会
(御蔵島村立御蔵島小中学校)

離島と世界を繋ぐ

～歴史から未来を創り人材を育む
教育旅行プログラム～



ニューベッドフォード捕鯨博物館

ここが
ポイント!

島を離れて気づく故郷の魅力。 考える自分の未来

歴史上の御蔵島とマサチューセッツ州ニューベッドフォードのつながりを知ることで、御蔵島に対する思いが深まります。島外(世界)から御蔵島を見つめることで、今まで気づけなかった地元の魅力を知ることができます。また世界屈指の大学を訪れることにより、「自ら学ぶ・自ら問いを立てる」という意欲を向上させます。そして将来、学んだことを大好きな御蔵島のために活かしたいと思うマインドを醸成し、御蔵島の未来を創る人材育成へと繋げることが期待できます。



ニューベッドフォード街並み



マサチューセッツ工科大学

プログラム概要

産業振興の担い手不足など課題を抱える御蔵島(離島)に暮らす子どもたちを対象に、アメリカ(ボストン近郊)を舞台に、グローバルな視点で形成し、アントレプレナーシップ教育、離島振興といったキャリア教育・まちづくりを学ぶことを目的としたプログラムです。御蔵島とマサチューセッツ州ニューベッドフォードの歴史上の繋がりを活かし、本プログラムをきっかけとして、将来的には御蔵島が抱えている課題解決に繋がっていきます。

プログラムの教育効果

御蔵島と世界(アメリカ)の歴史上の繋がりを(1863年御蔵島沖で座礁したアメリカ黒船「バイキング号」の乗組員の苦境を救った)を知ること、御蔵島から世界に旅立とうとする契機と意欲を掻き立てます。アントレプレナーシップ教育と関係づけ、これからの人生の設計図を描きかけにしたいと思います。そして、御蔵島と自分の関りを改めて考え、将来、一度島を離れた子どもたちがUターンで戻った際、島内で事業を創出できる人材育成に繋がっていきます。

プログラム行程

- 1日目 **PM** 夜行フェリーにて移動(御蔵島港→竹芝港)
- 2日目 **AM** 航空機にてボストンへ(直行便または経由便)
PM 現地到着
- 3日目 **終日** 捕鯨博物館+記念碑、万次郎友好記念館等の見学(ニューベッドフォード/ホイットフィールド)
- 4日目 **終日** 現地校または現地住民との交流会(ニューベッドフォード/ホイットフィールド)
- 5日目 **終日** 離島振興に関する取組視察(ボストン近郊の離島)
- 6日目 **終日** 現地大学訪問(ハーバード・マサチューセッツ工科大学等)、ボストン市内フリーダムトレイル(アメリカ)
- 7日目 **終日** 航空機にて一路日本へ帰国(直行便または経由便)
- 8日目 **PM** 帰国後、夜行フェリーにて移動(竹芝港→御蔵島港)
- 9日目 **AM** 早朝 御蔵島到着

事前学習・事後学習

準備期間	5ヶ月を想定
事前学習	理解浸透に向けた取組(歴史・道徳・英会話)
事後学習	学んできたことの整理および発表
ポイント	事前学習では、幕末の歴史やバイキング号に関する資料から歴史および道徳を学びます。英会話については、ALT(外国語指導助手)が常駐していないため、ALTが来島している期間中、放課後に教育委員会主催の英語教室を開催、村独自の学習支援助成を活用し各家庭にてオンライン英会話や学習サービスを受講する等工夫を凝らしていきます。事後学習では発表の場として学校内に留まらず、島民も招待するなど島全体を巻き込んで実施します。島全体で、子どもたちの学びをサポートしていきます。また、事前事後学習全般を通じて、島外にいながら御蔵島との関係性を持ち続けたい人々(関係人口)との連携を、今後模索していきたいと考えています。

プログラム開発の成果

視察日程	2026年1月14日～1月18日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育素材視察(文化財、大学等) ② 現地関係者との関係構築 ③ 現地の治安・安全面の確認

現地では、捕鯨博物館や記念碑を視察。現地での見学や体験内容を把握することができ、事前研修でインプットしておくこと等が明確になりました。また、現地にて離島振興に関わっている日本人の存在を把握し、事前研修(講話等)への協力願いや、糸口を見出すことができました。ボストン市内を公共交通機関を利用し回することで、治安状況や物価の把握ができました。



ビーコンヒル(ボストン)



記念碑(ニューベッドフォード捕鯨博物館)

安全対策

現地手配(ホテルや移動手段等)は、教育旅行の受入れに慣れ実績豊富なJTBの現地支店にて担当します。教育委員会、学校、旅行会社(国内・海外の本社・支店)にて緊急連絡体制を構築し、緊急時には現地添乗員とも連絡を取り合い、迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えます。参加者の食物アレルギーについても、現地にて最大限対応できるように調整していきます。

学校関係者のコメント

御蔵島村教育委員会 教育長 丹下 知男 先生

人口約300人の御蔵島で育った子どもたちは、進学のため15の春を迎える年に島を出なければなりません「15歳の旅立ち」。島の文化・歴史及び島民の心情を学ぶとともに、先人たちの功績を称え、島に対する思いを深めさせた上で、歴史的にも関わりの深いアメリカの地(ニューベッドフォード)を訪れることは、これからの生き方に大きな変化をもたらすことが期待されます。目的を果たすために、語学力・コミュニケーション能力の向上を計画的に取り組み、グローバル社会で活躍したいという思いをもたせたいです。さらに、将来は、生まれ育った御蔵島の発展に貢献できる力を身に付け戻ってくることに期待しています。

アドバイザーのコメント

城西大学附属城西中学校・高等学校 学校長 神杉 旨宣 氏



離島の生徒が世界に触れ「故郷の価値」を再確認する、意義深い設計です。御蔵島と米国マサチューセッツ州の歴史的絆を背景とした物語性は、生徒に島代表としての誇りを与えます。MIT等での最先端技術や同世代との交流は、島嶼部の生徒の進路に劇的な変革を促すでしょう。世界を学び地域へ還元する「回遊型人材」の育成は、他の島嶼部や過疎地の学校にとっても先駆的なモデルとなります。生徒の皆さん、世界で得た刺激を島の未来を拓く力に変えてくれることを、心から期待しています。



株式会社JTB 佐賀支店
×
佐賀県立有田工業高等学校

Think globally, Act locally! 『グローバル人財育成プログラム』

～職業観の醸成と持続可能な地域社会へ～



ドレスデン街並み

プログラム概要

有田町の伝統工芸技術に対する理解を事前に深めたくうえで、ドイツ・マイセン市において世界的な陶磁器技術やその保護・継承・発展について学びます。さらに、同世代との交流を通じて高校生の職業観を醸成し、持続可能な地域社会の実現に向けて主体的に行動できるグローバル人材の育成を目指します。

プログラムの教育効果

- マイセン陶器製作所において世界的な陶磁器技術や、その保護・継承・発展について学ぶことで、地元である有田町の伝統工芸技術の未来について考えます。
- 同世代との交流を通して、日本とドイツにおける進学・就職に対する考え方や制度の違いを理解し、自身の職業観を醸成することで、将来について考えます。
- 事前・事後学習においては、立教大学大学院ビジネスデザイン研究所の監修のもと、キャリア、ビジネス、地域活性化など幅広い分野の知見から学ぶことが可能です。

プログラム行程

1日目	終日 移動	3日目	AM ドレスデン 企業訪問 PM フラウンエン教会、ツヴィンガー宮殿等見学
2日目	AM マイセン市役所訪問 (市長もしくは副市長表敬訪問) PM マイセン陶器製作所(職人養成所)見学・交流、 市立博物館見学	4日目	AM 現地学生との交流・意見交換等 PM 参加者決意表明
		5日目	終日 移動

事前学習・事後学習

準備期間	4～5ヶ月を想定
事前学習	『ローカル×グローバル視点でのキャリア形成』 伝統工芸の保護と継承、発展について、有田との違いは何かを考える
事後学習	『キャリアビジョンの具体化』『学んだことの地域還元』 マイセン市から学んだアイデア、持続可能な地域社会のためのアイデアを発表(アウトプット)
ポイント	<p>〈事前学習〉『キャリア意識、職業観の育成』『郷土愛の醸成』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル時代における多様なキャリアの可能性を理解し、自分なりの働き方・生き方を見つけます。 ・地域産業(伝統工芸)を活かしながら、世界とつながる新しい職業観を育成します。 ・地域産業を世界的な視点で捉えることにより、地域の魅力を再発見し、郷土愛を醸成します。 <p>〈事後学習〉『グローバルな人財』『変化の激しい時代に適応し、自ら未来を創造する力』を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成に資する多角的な視点と選択力を身につけます。 ・地域資源の魅力を再発見し、地域愛や当事者意識を醸成するとともに、プレゼンテーションを通じて論理的思考力・構成力・表現力・発信力を養います。

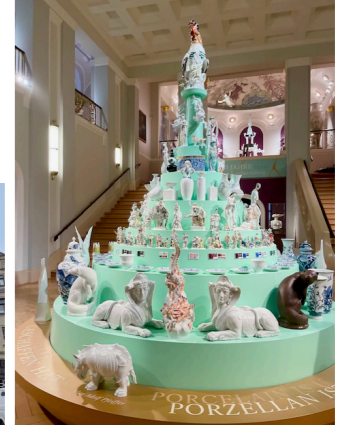
ここがポイント!

世界で伝統工芸がどのように守られているかを知り、自身の町と比較することにより、視野を拡げ、郷土愛の醸成に繋げる

実際に現地で職人として働くアーティスト等から直接話を聞けることが、本プログラムの大きな特徴です。伝統産業を存続していくためには「日々追及し続けること」が大切であり、マイセンの働き方を学ぶことで自身の職業観の育成につなげることができます。



マイセン市で市長やアーティストにお会いし対話をする



ガイドツアー付きマイセン陶器製作所訪問

プログラム開発の成果

視察日程	2026年1月7日～1月11日
視察成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 地元の良さを認識し、地元で働く魅力を知る ② 新たな価値観を取り入れた職業観の育成 ③ 現地施設の確認

なぜマイセンにて伝統産業を受け継いでいくのか、地元でマイセン陶器アーティストとして活躍される方よりお話を伺いました。伝統の存続・魅力の発信は、「日々追及し続けること」が大切であり、マイセンの働き方について生徒たちの職業観の育成に寄与できればと思います。



プロの作業を1工程ずつ見学ができる。生徒ができる体験をリクエスト中。



陶器製作所内の見学と学生との交流も可能

安全対策

見学先の危険情報を現地支店を通じて事前に確認し、安全に配慮いたします。また現地ガイドではドイツ語だけでなく日本語も話せるガイドをつけることで緊急時の対応も素早く対応できるようにします。

学校関係者のコメント

佐賀県立有田工業高等学校 高田 ゆう子 先生

有田町の姉妹都市であるドイツ・マイセン市で、陶磁器産業の町という共通点はあるものの、それぞれの文化、歴史的背景、製造技法の違いや技術継承の仕組みなどを学んでもらいたいです。また、現地での貴重な経験や交流を通して、これからの自分自身の進路や有田焼について考える機会になってほしいです。

アドバイザーのコメント

和歌山大学観光学部・武蔵野大学しあわせ研究所 教授 加藤 久美 氏



陶磁器技術の伝統を介して、伝統技術やものづくりを専門的に学ぶ学生たちが交流し、伝統の保全・継承・発展や自身の職業観について意見交換を行うことの意義は大きいと考えます。特に、気候や地質、自然環境、生活文化とも密接に関わる陶磁器を通じて、社会・経済・環境に関する多様な視点を得ることができると考えられます。今日、伝統や文化、技術は生活様式の変化とともに失われつつありますが、ものづくりや伝統工芸の精神・技術には「持続可能な」考え方が多く含まれています。それらを地域独自のサステナビリティとして再確認することで、伝統を継承することの今日的な意義や、ものづくり以外の分野への応用にもつながることが期待されます。



株式会社エモック・エンタープライズ
×
開智中学・高等学校

チェコ・プラハで 日本を学ぶ

～日本語・日本文化から始める
海外研修の形～



日本文化を紹介

プログラム概要

本プログラムは、チェコ・プラハにおいて日本語や日本文化を学ぶ学生と共に学び、日本を海外の視点から捉え直すとともに、自身のローカルな経験をグローバルな体験へと昇華することを目的としています。滞在期間の大半を現地学生との交流に充てることで、相互理解を深め、将来的な相互訪問につながる関係構築を目指します。また、ホームステイを取り入れることで、費用を抑えつつ長期滞在を実現し、地域資源を活用した観光の時間も確保することにより、海外教育研修としての付加価値の向上を図ります。

プログラムの教育効果

事前学習を通して、相手国および自国の文化や言語に対する理解を深めます。特に、現地での日本語授業への参加や文化交流を通じて、日本を多角的な視点から捉え直す体験を行います。また、現地学生とともに世界遺産等を訪問し、感動的な体験を得ることで、歴史や文化に対する興味・関心の幅を広げます。さらに、英語を母語としない者同士による英語での交流を体験することで、国際交流の手段としての英語の価値を再認識します。加えて、オンライン交流や相互訪問を継続的に実施することで、長期的な関係性の構築を図ります。

プログラム行程

1日目	AM 長距離フライトを体験 PM 現地到着、ホストファミリーと合流、ホームステイ	5日目	AM 学校訪問・授業参加 PM 大学訪問、キャンパスツアー(現地の大学生と交流)
2日目	AM 学校訪問:オリエンテーションと授業参加 PM 現地観光・文化研修、 放課後はホストファミリーと過ごす	6日目	終日 (休日)ホストファミリーと過ごす(終日) または 希望者で日帰り観光(チェスキークルムロフなど)
3日目	AM 学校訪問・授業参加 PM 現地観光・文化研修・大学生とも交流	7日目	AM ウィーンへ移動、現地訪問 PM 授業訪問、文化交流、修道院訪問(キャンドルツアー)
4日目	AM 学校訪問・授業参加 PM 授業参加(終日、現地校の授業に参加)	8日目	AM ウィーン探究(現地生と行動) PM ウィーン探究(現地生と行動)、コンサート鑑賞
		9日目	AM ウィーン美術館・博物館巡り(現地大学生と) PM 帰国

事前学習・事後学習

準備期間	6ヶ月を想定
事前学習	自己紹介カードの作成、オンラインによる自己紹介、授業参加の準備、文化交流の準備
事後学習	訪問記をまとめて文化祭などで発表、翌年の海外研修説明会などで発表、訪問受け入れ協力
ポイント	オフライン・オンラインと訪問を組み合わせ、成果物を残しつつも十分な直接的交流体験ができるようにします。自己紹介カードの交換やオンラインによる1対1での対話を通じて、相手の顔と名前、趣味や好みなどが一致するよう、事前学習の回数を確保します。大使館を訪問してのプレゼンテーションや、大使館の広報文化センターでの文化交流を企画し、実践します。継続的な交流を実現するため、オンラインをはじめ対面交流や相互訪問の機会を設けられるよう、教育提携(姉妹校提携)を結びます。

ここが
ポイント!

海外研修が日本再発見の旅になる! お互いの国で留学交流も実現

現地の高校や大学において、日本語を学ぶ学生や日本文化に対する興味・関心が高い学生が多く、日本語での会話が可能な学生が多いことに驚かされました。表面的な文化交流にとどまらず、体験型や訪問型の交流に対するニーズも高く、伝統工芸体験や日本訪問の受け入れなどを企画・実践しました。また、英語でのコミュニケーションを軸としつつ、日本語や日本文化を主題として正面から扱うことで、新たな視点による国際交流の可能性を見出すことができました。



プラハの大学生と会談



現地の高校生とかるた大会

プログラム開発の成果

視察日程 2025年10月18日～10月24日

視察成果

- 1 姉妹校提携による現地生のホームステイ先の確保(20名)
- 2 日本語を学ぶ大学生との交流、オンライン・対面交流の実現
- 3 ウィーンまでエリアを拡大して高校訪問&大学生交流の実現

現地の学生や先生方と直接お会いしてお話することで、学生たちのニーズを把握するとともに、先生方の教育に対する考え方や国際交流に対する意識を共有し、信頼関係を構築することができました。生徒同士の直接交流を軸とした新たな海外研修の形を企画するとともに、現地の日本語授業に参加することで、日本語や日本文化を軸とした交流企画を実現することができました。



ホストファミリーの生徒たち



新しい研修地の開拓

安全対策

常に集団またはホストファミリーと行動します。グループ行動やホームステイ時には、常に通信環境を確保した状態とします。引率教員とは毎朝ミーティングを実施し、ホームステイの場合には毎晩帰宅連絡を行います。行程中は添乗員に加え、現地在住で日本語を指導している日本人教師がアテンドします。また、「たびレジ」に登録するとともに、在外日本国大使館にも事前に訪問し、現地での不測の事態に備えます。

学校関係者のコメント

開智中学・高等学校 国際教育主任、教頭補佐 三原 忠 先生

本校の英語教師にチェコ出身の教員を採用したことで偶然始まったチェコ交流ですが、現地校との姉妹校提携、ホームステイの実現、大学で日本語を学んでいる学生との出会いなど、実際に訪問して交流を行うことで、新しい国際交流の形を驚くほどスピーディに展開することができました。海外において日本に対する興味関心は非常に高く、日本語を学ぶ学生たちをターゲットに交流を展開することは結果的に共通言語としての英語の学習意欲向上に繋がり、自国の文化を学ぶ機会にもなるなど、良い教育効果を生んでいます。継続させることが課題ですが、今回の視察でより広範囲により多くの現地の方々と新しい関係性を築くことができたので、今後に期待です。

アドバイザーのコメント

一般社団法人 次世代教育ネットワーキング機構 理事・事務局長 高野 満博 氏



ヨーロッパの内陸に位置するチェコ共和国は、周囲を複数の国に囲まれ、海に囲まれた日本とは大きく異なる文化・歴史をもつ国です。今回のプログラムでは、首都プラハで日本語や日本文化を学ぶ学生との交流を通じ、「海外から見た日本」に触れることで、多角的に自分や日本を捉え直す新しい観点での国際交流が期待できます。また、学校所在地の伝統工芸である岩槻人形を紹介する活動では、日本人形とチェコのマリオンネットの違いを比較しながら互いの文化を尊重し合う学びが生まれます。さらに、英語を母語としない者同士の対話は、国際社会で必要な実践的コミュニケーション力を育む機会となるでしょう。



一般社団法人
次世代教育ネットワーク機構
理事・事務局長
高野 満博 氏

専門分野
教育旅行
探究学習

1990年、株式会社JTB入社。企画仕入部教育企画仕入課長、西日本教育旅行仕入センター所長、など、主に教育旅行営業と仕入業務に携わってきた。現職前は(公財)日本修学旅行協会・事務局長を務め、教育旅行全般に精通している。

- カモメツーリスト株式会社×学校法人新渡戸文化学園 新渡戸文化中学校・高等学校
- 株式会社エモック・エンタープライズ×開智中学・高等学校



日本認定 留学カウンセラー協会
代表幹事
星野 達彦 氏

専門分野
海外留学
海外研修
国際交流事業

30年以上の留学事業経験を活かした国際教育事業コンサルティングを行いつつ、留学界団体や国際交流事業を行う財団の理事としての仕事や留学関連本の執筆などを行っている。業界最大手エージェントにて執行役員として事業開発、マーケティング、留学雑誌プロデュース、危機管理、営業支援システム構築などを行ってきた。

- 東武トップツアーズ株式会社 札幌支店×学校法人立命館慶祥高等学校
- 株式会社JTB 茨城南支店×茗溪学園中学校高等学校



日本大学 国際関係学部
教授
穴戸 学 氏

専門分野
観光学
観光ホスピタリティ教育
人材育成

専門は観光学、主専攻は観光ホスピタリティ教育(人材育成・産官学連携)。札幌国際大学、横浜商科大学を経て、現職。科研費(国の競争資金)にて、教育機関や地域の人材育成、訪日教育旅行等の教育旅行の促進を含めた観光教育の研究に取り組む。

- 株式会社イクシル×公益社団法人 全国工業高等学校長協会
- 東武トップツアーズ株式会社 仙台支店×聖ウルスラ学院英智高等学校



和歌山大学観光学部・
武蔵野大学しあわせ研究所
教授
加藤 久美 氏

専門分野
サステナビリティ
サステナブルツーリズム

豪Qld大学、Griffith大学レクチャーを経て、2008年より現職。専門はサステナビリティ、サステナブルツーリズム。ISA(国際社会学会RC50(観光)共同代表、PATA理事、Earth-Check研究員、Qld大学客員准教授、Griffith大学客員研究員。

- くま川鉄道株式会社×熊本県立球磨工業高等学校
- 株式会社JTB 佐賀支店×佐賀県立有田工業高等学校



城西大学附属城西中学校・
高等学校 学校長
神杉 旨宣 氏

専門分野
国際交流
海外研修
探究学習

「天分の伸長」「個性の尊重」「自発活動の尊重」の三つの建学の精神に基づき、「報恩感謝」の理念を掲げる。探究活動や海外研修を通じて生徒の内面からの成長を促す。米国の高校卒業資格が得られる「USデュアルディプロマプログラム」といった個性的な取り組みも光る。

- 株式会社JTB 教育第二事業部×東京都御蔵島村立御蔵島中学校



文部科学省官民協働海外留学
創出プロジェクト広報・
マーケティングチームリーダー
西川 朋子 氏

専門分野
海外留学
海外研修
官民協働事業
広報・マーケティング

上智大学法学部を卒業後、人材、出版業界、メディア事業会社経営、PR会社、IT企業広報など民間企業で15年働いた後、2014年4月から現職。2015年、母校、神奈川県立湘南高校の同窓会による公益財団法人湘友会育英財団の設立に参画、奨学金審査委員。

プログラム名	担当旅行会社概要
台湾 「建築で未来を創る 台湾で学ぶ災害復興と 伝統継承の実践型グローバル教育」	くま川鉄道株式会社 〒868-0008 熊本県人吉市中青井町265番地 TEL:0966-23-5011
モンゴル 「STEM 交流プログラム」	東武トップツアーズ株式会社 札幌支店 〒060-0051 北海道札幌市中央区南1条東1丁目3 パークイースト札幌7階 TEL:050-9001-6580
インド 「新しい時代の未来を創造する旅! ～インドの精神・哲学から、創造性・柔軟性・ 余白を感じる 次世代スタディツアー～」	カモメツーリスト株式会社 〒164-0012 東京都中野区本町2丁目46-1 中野坂上サンブライトツイン10F 南ウイング TEL:03-6380-1155
タイ 「微笑みの国で拓く、Well-being 探究の旅 ～自由研究で見つける、私と世界のつながり～」	株式会社JTB 茨城南支店 〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-2-4 第二ISSEIビル3階 TEL:029-860-2871
マレーシア 「錫(すず)の歴史から最先端ロボティクス および多文化共生社会を技術で読み解く」	株式会社イクシル(ICXIL) 〒210-0024 神奈川県川崎市川崎区日進町1 サンスクエア川崎 TEL:044-400-0421(代表)
フィリピン 「ストリートチルドレン支援現場で学ぶ 「産業福祉」実地研修」	東武トップツアーズ株式会社 仙台支店 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-6-18 山一仙台中央ビル3階 TEL:050-9001-8563
アメリカ 「離島と世界を繋ぐ ～歴史から未来を創り 人材を育む教育旅行プログラム～」	株式会社JTB 教育第二事業部 〒141-0021 東京都品川区上大崎2丁目24番9号 目黒IKビル3階 TEL:03-6631-3183
ドイツ 「Think globally, Act locally! 「グローバル人材育成プログラム」 ～職業観の醸成と持続可能な地域社会へ～」	株式会社JTB 佐賀支店 〒840-0825 佐賀県佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル内 TEL:0952-22-0784
チェコ 「チェコ・プラハで日本を学ぶ ～日本語・日本文化から始める海外研修の形～」	株式会社エモック・エンタープライズ 〒105-0003 東京都港区西新橋1-19-3 第2双葉ビル2階 TEL:03-3507-9777

※プログラムに関するお問合せは直接各旅行会社へお願いいたします。
※パートナーの学校、企業への直接のお問合せはご遠慮ください。
※2026年3月時点の情報です。